漁師のライフコースのコーホート間比較

――千葉県銚子市外川地区の調査から――

池岡　義孝

これまでの社会学による村落研究は、農村社会学とも称されるように、研究の対象地をもっぱら農村に求めてきた。それは、日本では漁村といっても、そのほとんどが半農半漁の農村的性格も兼備したものであったことによるだろう。したがって、正面から漁村を対象にした研究は少数であった。しかも、その少数の研究は漁業村落や漁家であるいは漁業そのものの研究であって、漁民・漁師を分析対象に直接すえた研究は皆無であるといっても過言ではない。

本報告は、専業的な漁業地域を調査対象地として、複数の世代の漁師を対象者として、ライフコース分析の手法を用いてデータ収集とデータ分析を行なっている「漁師のライフコース」調査の結果の一部を報告するものである。調査は一九八九年から千葉県銚子市外川地区で継続して行なっている。

専業的な漁業地域で専業の漁師を対象にするのは、農民的・農村的性格を考慮に入れずに済む純粋な漁師の典型を考察するためである。また、漁村や漁家や漁業そのものではなく漁師を対象にするのは、この研究の目的のひとつが、家族社会学を中心にして近年盛んになってきているライフコース分析を小規模な地域社会の分析に適用する試みであることによる。したがって、個人単位でデータを収集するが、少数の個人を対象にした生活史研究ではなく、比較的多数の個人から構成されるコーホートのデータを、個人データとともにデータ分析のもうひとつの重要な単位として、それらをより広い社会的・歴史的状況との関りあいのなかで分析するライフコース分析を行なう。

この研究では、一九八九年度には六十五歳から七十八歳までの高年コーホート五十名を、一九九〇年度には四十一歳から五十五歳までの中年コーホート七十九名を、一年おいた一九九二年度には二十歳から三十九歳までの若年コーホート四十名を対象とした面接調査を実施している。しかし、若年コーホートを対象にした調査は、今夏に実施したばかりなので、今回の報告では高年コーホートと中年コーホートを対象にした分析結果の一部を紹介するにとどめる。コーホート内分析によって同一の出生コーホート内のライフコースの多様性を、コーホート間分析によって二つのコーホート間のライフコースの差異を明らかにし、とりわけコーホート間分析から二つのコーホートが生きてきた時代の外川地区の地域社会の変化や漁業の変化を説明することを試みたい。また、分析で取り上げるデータも、青年期から成人期への移行、つまり外川で生まれた子供がどのようにして一人前の漁師になるのかというところに焦点をしぼることにする。

外川の漁業を概括すれば、船主が五十――六十人の「乗り子」を雇用して船団を組んで行う「まき網漁業」と、小規模な家族的経営で延縄や一本釣りを行う「小船漁業」に大別される。歴史的には「ま

き網漁業」から「小船漁業」への変化が指摘できる。最盛期には十五ケ統（船団）もあったまき網の船団は、現在では三ケ統しか残っていない。また、かつては義務教育も終了しない十一――十二歳からの年少労働者の住み込みの年季奉公が一人前の漁師になるための修業として位置づけられていたが、その修業のありかたも変化してきている。四十歳未満の若年コーホートでは、そうしたかたちの修業を経験したものは一人もいない。小船を所有する親元での修業が一般的になっていくのである。地域社会の変化や漁業の変化といったマクロなデータからではなく、個人やコーホートのいわばミクロなデータから、こうした変化の説明を試みるのが本報告の目的である。

（早稲田大学）